

厚生文化常任委員会

(福祉・医療等の施策を審議する委員会)



介護現場の実態をくまなく調査する後藤かつみ

介護人材の育成・処遇改善に取り組む

福祉の根幹を担う介護職員は低賃金と劣悪な労働環境から離職率が高く、良質な福祉サービスに支障が生じています。リベラル群馬も、この危機的な状況の改善すべく、介護職員の処遇改善と人材育成を提言してきました。

今議会では、国の交付金を活用して県内の8割の施設で約15000円の賃金アップが図られ、また、

群馬県独自で介護現場のリーダー人材を育成する「ぐんま認定介護福祉士」制度も好評を受け定員を倍増するなど、施策を着実に推進していることが確認できました。

実効ある自殺対策のため追加事業を予算化

長期に渡る厳しい経済環境により自殺者が急増していることか

観光特別委員会

「体験型」観光の完成度は？

H23年度に、県とJRの共同観光イベントである「ディスプレイ・キャンペーン(DC)」が開催されます。

後藤も、DCの成功事例と言われる会津の取り組みの現場を自主視察し、DCを一過性のイベントに終わらせないための施策を提言しました。

群馬DCは地域の農業や伝統工芸などに触れる「体験」を前面に押し出しています。こ

ら、後藤はそこに焦点を置いた対策が必要であることを提言してきましたが、9月補正予算において、メンタルヘルス対策の取れない中小企業の社員への対策事業が予算化されました。また、多重債務者への相談窓口でも保健師による精神面でのケアも同時に行うことで自殺を食い止める取り組みなど、実効ある施策が進展していることが確認できました。



大正浪漫調の街並みづくりによる商店街活性化の取り組みを視察する後藤かつみ (会津若松市「七日町通り」にて)

これは、観光地のみが潤う従来型観光でなく、農村部を中心に地域経済全体が潤う観光を目標

指している意味で評価できます。後藤は、会津での取り組み事例をヒントに、「体験型」観光を成功させるためには、①体験↓滞在・宿泊に繋げる仕掛けが必要であること、②各地域の「体験型」観光について、各地域の観光協会がバラバラに窓口となっていて現状を改め、県内の窓口を一元化すること。の2点を提言しました。

特に、窓口の一元化により、「首都圏で田舎暮らし体験をしたいなら群馬」というブランドイメージを積極的に発信できることから、県も研究に乗り出す意向を示しました。

地域活動報告 (下小埜地区)

後藤かつみは、地域の安心安全の向上のために日々汗を流しています。皆様の地域の「声」をどんどんお寄せ下さい。

下小埜地区の新井団地は、烏川と隣接していることから堤防の補強対策が長年の課題でした。後藤は区長、地元の山田市議より要望を受け、H21年10月に陳情書を提出。その後、県と粘り強く折衝を続け、H22年度予算で予定を大幅に前倒ししての事業化が実現しました。安心安全な暮らしを求める地域の切実な声が行政を動かしたと言えます。



要望を受け、現地の状況を確認する後藤かつみ



予算化が決まり、黒島区長・山田市議とともに現地にて今後の対応を協議